

JP136 沖ノ島・小屋島 (おきのしま・こやじま)

福岡県：宗像市

位置	N 34° 14' E 130° 06'
面積	97ha

環境構成【島嶼／森林】

沖ノ島は福岡市の北北西 78Km の玄界灘に浮かぶ面積約 85ha の孤島である。

島全体が宗像大社の神域であり神社の許可なくしては一木一石とも持ち出すことが禁じられている。施設としては灯台および港が緊急避難港に指定されていることから漁業者所有の宿舎があるのみである。

島全体が神域であることから、植生の原始性が高く「沖ノ島原生林」として国の天然記念物に指定されている。島の北西側および南部は深い森林に覆われ、典型的なタブノキ型の森林となっている。

小屋島は本島南南東側約 1 km に位置する岩礁である(標高 29m)。樹木はなくヒゲスゲと路出した岩礁である。

現在沖ノ島本島並びに小屋島、御門柱および天狗岩の区域は集団繁殖地として国指定鳥獣保護区に指定されている。



写真提供：森本嘉人

選定理由

A1	カンムリウミスズメ・ウチヤマセンニュウ
A2	カラスバト
A4ii	オオミズナギドリ・カンムリウミスズメ

保護指定

サイトの全域 (90%以上) に法的な担保がある

<保護指定の内容>

国指定鳥獣保護区 (沖ノ島)

<その他>

国指定天然記念物沖ノ島原始林

保全への脅威

- ・ノネコの鳥類への影響(本島)
- ・ドブネズミ、クマネズミによる捕食(小屋島で営巣するカンムリウミスズメとヒメクロウミツバメに対して、1987年と2009年にドブネズミの侵入が確認されており、両種とも大きな被害を受けた。沖ノ島でもドブネズミとクマネズミの生息が確認されていて、今後、小屋島へのドブネズミの再侵入の懸念がある。)

鳥類の個体数、生息環境の現状

- ・IBA サイトにおける重要な鳥類 (IBA 選定基準種) の個体数の変化
変わらない
カンムリウミスズメは減少後のレベルを維持しているようである。ヒメクロウミツバメは一時期繁殖が見られなかったようだが、現在は少数ながら繁殖している。
- ・IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：無
- ・IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化：
変化はない
- ・IBA 選定基準種の生息環境：
良好(全域、もしくは90%以上が最適の状態)
- ・IBA エリアの保全管理計画の有無：有

保全活動

北九州市立自然史・歴史博物館学芸員を中心とする調査チームの調査保全活動。

見られる鳥

調査記録によると、これまでに193種が記録されている。

出典 岡部海都資料(財団法人九州環境管理協会研究員 福岡市)

内訳 繁殖種 14種 越冬種 13種 渡りの時期に見られる種166種

見られる鳥

オオハム、カイツブリ、アカエリカイツブリ、カンムリカイツブリ、オオミズナギドリ、ヒメクロウミツバメ、ヒメウ、ウミウ、ミゾゴイ、ゴイサギ、ササゴイ、アマサギ、ダイサギ、コサギ、クロサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、ミサゴ、ハヤブサ、カラスバト、ハシボソガラス、ハシブトガラス

*沖ノ島・小屋島の周辺海域は、マリーン IBA (Marine Important Bird and Biodiversity Areas : 海鳥の重要生息地) に選定されている

詳しくはこちら <http://www.wbsj.org/activity/conservation/habitat-conservation/miba/>

関連団体・自治体・施設等

・日本野鳥の会 北九州支部

